

ペドロ・ファン・カバジェロ市概要（アマンバイ県）



アマンバイ県ペドロ・ファン・カバジェロ市エントランス

アマンバイ県ペドロ・ファン・カバジェロ市は、首都アスンシオンから北東へ約、430km、ブラジルとの国境に接した街です。ペドロ・ファン・カバジェロ市の日系社会は、1956年5月、アマンバイ県CAFÉ(コーヒー)耕地への契約雇用農の入植によってはじまりました。しかし、実際のコーヒー雇用農とは、ブラジルのコーヒー農園の奴隷が解放され、それに代わるものとして導入されたため、労働条件や待遇は非常に厳しいものであったとの事です。また、コーヒー耕地の経営者は経営不振で賃金の遅払いや不払いが発生し、1959年に倒産し、退耕者の大部分は土地を購入し自営農となり、一部はペドロ・ファン・カバジェロ市やブラジルへ転住しました。

その後、コーヒー雇用農として入賞申田移住者によってペドロ・ファン・カバジェロ市、カピタン・バード（ペドロ・ファン・カバジェロ市からブラジル国境沿いに約120km南下した地点に位置する町）に日系社会が形成されました。

現在（2022年12月）、アマンバイ県には約120家族500人が住んでおり、他の移住地に比較し、営業を営んでいる日系人が多いです。

ペドロ・ファン・カバジェロ市の日系社会ではブラジルの教育の水準の高さもあり、日系子孫の70%がポインタ・ポラ（ブラジル）市内の学校へ通い、ブラジル公教育を受けており、この土地に住む日系人は一般的にスペイン語以外にポルトガル語及び日本語も話せます。

アマンバイ日本文化協会

同日本文化協会（日本人会）は1956年に設立され、現在（2022年12月）は、婦人部、むつみ会（老人クラブ）などの系統団体の協力のもとに、教育、文化、体育、福祉などの事業・活動を行っています。また、アマンバイ日本語学校及び幼稚園の運営も行っています。

現在では青年部が形成され、様々な日本人会の行事の企画・実施を行っています。



アマンバイ日本文化協会



アマンバイ日本文化協会公民館

社団法人アマンバイ日本文化協会

住所：Tte. Herrero y Curupayty No. 390, P. J. Caballero, Amambay, Paraguay

電話・FAX：(+595 336)272 529

E-mail: amambayjp@yahoo.co.jp

アマンバイ日本語学校

当初、各日本人移住地に日本語学校がありましたが、1976年にサンハ・プタン、シリグエーロがアマンバイ中央校に統合し、現在のアマンバイ日本語学校が開校されました。

現時点（2022年12月）、アマンバイ日本語学校は小学校から中学課程までのクラスが設けられており、全体生徒数は31名、教師は3名です。



アマンバイ日本語学校

アマンバイ農業協同組合

1960年にアマンバイ農業協同組合が設立され、コーヒーを中心とした農業経営を目指し、1965年にはコーヒー乾燥工場が完成しました。しかしながら、1975年の大霜害でコーヒー農園はほぼ全滅し、大豆栽培、養鶏、養豚、牧牛等による多角化営農へ転換するなど、アマンバイ農協はこれまで幾つもの営農危機を乗り越えてきた歴史があります。しかし、組合数の減少により事業活動ができなくなり、今年解散することとなりました。

ペドロ・ファン・カバジェロ市内の紹介



アマンバイ県庁



ペドロ・ファン・カバジェロ市警察署



日本の無償資金で建設されたアマンバイ地域病院



ブラジルとの国境



セロ・コラ国立公園

行き方

アマンバイ県に行くには、国道3号線を約350km行き「Yby Yau」と言う交差点から国道5号線を右に向かい、最終地点（Yby Yau から約100km）がペドロ・ファン・カバジェロ市です。首都アスンシオンからペドロ・ファン・カバジェロ市行きの長距離バスは頻繁に運行しています。ペドロ・ファン・カバジェロ市はアスンシオン市から北東に向けて約450km地点に位置しており、バスで約8時間、車で7時間程度かかります。